

令和2年度 花園第三保育室 自己評価分析と今後の課題

園内評価より	
I 保育の計画性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度とほぼ同様に、「よくできている」「まあまあできている」がほとんどを占める。環境の構成については、すべての設問に対し、半数以上の職員が「よくできている」と回答。園内研修(DIY)を通して、環境の大切さに気が付いたようである。</li> </ul>
II 保育の在り方、幼児への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模保育事業所のため、この項目は割愛</li> </ul>
III 保育者としての資質や能力・良識・適性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの職員が、保育者としてのマナーや義務の理解、組織の一員としての自覚は有と評価。</li> </ul>
IV 保護者への対応・守秘義務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね保護者への対応守秘義務についての評価は高い</li> <li>・その中でも情報の発信と受信、自園の苦情解決システムについて保護者への説明等「あまりできていない」評価をする職員に対しての個別フォローが必要である。</li> </ul>
V 地域の自然や社会との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人々との挨拶などは「できている」と評価。</li> <li>・小規模保育事業所のためか、小学校や高齢者施設との交流については職員の興味関心が薄いようである。3歳未満児であっても交流の方法はあると考えられるので、検討していきたい。</li> </ul>
VI 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ねできているという評価が多い。しかし、「あまり、まったくできていない」評価をつける職員もあり、個別の対応が必要である。</li> <li>・環境構成にもつながるが、外部講師を招いての環境についての園内研修を重ねた結果、専門性に関する意欲態度が向上したようである。</li> <li>・保育の専門知識以外への関心が昨年より高い評価が多かった。</li> </ul>
VII 保育の在り方、3歳未満児への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての項目において「できている」という評価が多くみられる。</li> <li>・子どもに寄り添う姿勢が培われているようである。</li> </ul>

利用者評価より	
★家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園に意見や苦情はなかったという回答が多い。コロナ禍の中でも、少人数施設であることが幸いし、送迎方法等姉妹園に比べ変化がなかったためだと思われる。</li> <li>・子育ての悩みについても保育者に相談できるとすべての家庭が回答。保育者の自己評価とも一致する。</li> </ul>
★カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の基本方針や保育方針に関して、「知っている」「少し知っている」との回答で10割。また、わが子が充実した園生活を過ごしていると感じている家庭も10割。</li> <li>・園が子どもの人権を守っており大切にしているという評価も10割で、園内の評価とも一致する。</li> </ul>
★環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内の清掃環境、雰囲気に関しては高評価である。</li> <li>・保育者のコミュニケーションや言葉遣い、あいさつについても概ね評価が高い。</li> <li>・保育者側が自己満足に終わることなく、利用者との関わりをもう一度園内で見直すことが必要である。</li> </ul>

※令和2年度の利用者アンケートは、昨年度までアンケート用紙を配布・アンケートボックスで回収だったが、メール連絡網を使ったオンラインでの回答となった。回収率は今年度57%となり、例年より少ない回収率となった。送迎時に回収ボックスに入れるほうが第三の保護者は回答しやすかったようである。